

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	イタリアの国際会議における新奇スピン輸送現象に関する学会発表
氏名 Name	佐野 涼太郎
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科 物理学・宇宙物理学専攻 博士後期課程・3回生
渡航国 Country	イタリア
渡航日程 Travel schedule	2024年6月28日 ～ 2024年7月13日

- ・ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- ・写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- ・各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- ・日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航では、イタリアにて開催される連続する国際会議（International Conference on Magnetism 2024 及び、そのサテライト会議である 25th International Colloquium on Magnetic Films and Surfaces）に参加し、申請者自身の最新の研究成果を世界に広く発信すること、また幅広い分野の専門家の方々との議論を行うことで研究の更なる発展を目指すことを目的とした。具体的には、申請者は「2次元ファンデルワールス磁性体における新奇スピン輸送現象の解明」及び「DNA 等におけるカイラリティが創発するスピン偏極機構の解明」といった二つの分野に関する研究成果を発信するとともに、分野を牽引する世界中の研究者との議論を通じて、今後の研究の更なる発展へと繋げていくことを目指した。

成果 Outcome

渡航者は本国際会議において、それぞれ“Temperature dependence of chirality-induced spin selectivity along DNA double helix”及び“Surface acoustic waves-driven magnon spin Hall effect in atomically thin van der Waals antiferromagnets”という題目のポスター発表を行い、最新の研究成果の発信に努めた。発表中には活発な質疑応答も行われ、自身の研究や今後の展望についても議論を行うことができた。質疑応答の時間内だけでなく、発表を聞いた研究者と後に交流する機会もあり、本渡航の最大目的である研究成果の発信に加えて、研究者からのフィードバックを受けるといった目的もまた十分に達成することができた。

もちろん自身の発表だけでなく、他の研究者の口頭発表、ポスター発表、基調講演を聴講することができたのも大きな成果であった。特に、渡航期間の前半に開催された ICM2024 は世界規模の国際会議であるため、膨大な数の研究者が参加しており、意欲的な研究成果や今後の分野の方向性を予感させるような新たなアプローチを学ぶことができたのは大きい。さらには年代の近い研究者も多かったため、研究交流を通じてネットワークを広げると同時に、将来のキャリア形成にとって重要な機会を得ることができたと考える。

今後の展望 *Prospects for the future*

本学会開催期間中では、口頭発表やポスター発表を通じて最新の研究動向を知ることができた。特にポスター発表では、自身と分野の近い研究者と深く議論を交わすことができた。研究者ネットワークや共同研究の基盤を構築するために、本学会で知り合った方々とは今後も交流を続けていきたいと考えている。さらに英語での発表ということもあり、丁寧な発音や発表そのものの分かりやすさなど発表の魅せ方にも気を配った。本渡航での成果を糧に、今後も積極的に国際会議に参加していく所存である。